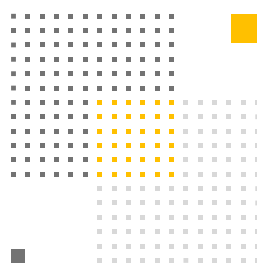


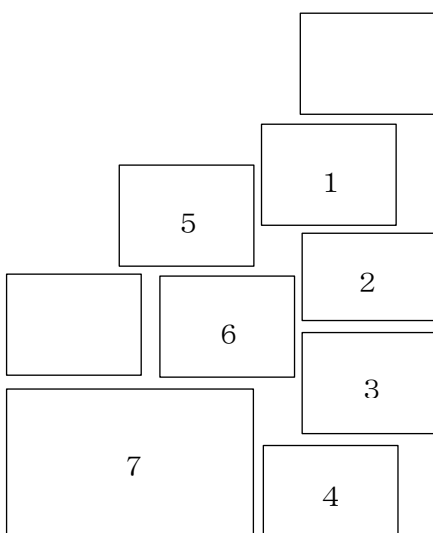
令和7年度 京都府議会・京都府立大学 包括連携協定 連携事業 実施結果



令和8年3月
京都府議会・京都府立大学

目次

令和7年度事業を振り返って	1
1 連携事項	2
2 令和7年度実施事業の概要	2
(1) 府議会の政策形成及び調査に関する事項	2
ア 京都府立大学副学長による講演	
イ 議員・大学生との合同調査・意見交換	
ウ 議会図書館と京都府立大学附属図書館の連携	
(2) 大学の教育・研究及び人材育成に関する事項	3
ア 京都府議会による地方議会制度の講演	
イ 議員・大学生との合同調査・意見交換（再掲）	
ウ インターンシップ実習生の受入	
エ 大学生の委員会傍聴	
(3) その他目的を達成するために必要な事項	3
ア SNS、HP等による情報発信	
3 参加教員の所感について	4
《資料》各包括連携事業の結果概要等	5



表紙写真

- 1 京都府議会による地方議会制度の講演（7月7日）
- 2 大学生の委員会傍聴（8月19日）
- 3 京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）のポスターセッション（12月9日）
- 4 インターンシップ実習生の受入（8月26日～9月8日）
- 5 京都府立大学副学長による講演（9月25日）
- 6、7 議員・大学生との合同調査・意見交換（11月17日）

令和7年度事業を振り返って

令和6年3月、京都府議会と京都府立大学は、地域が抱える様々な課題についての確に
取り組むとともに、魅力ある地域づくりの推進や人材の育成に資することを目的に包括連
携協定を締結し、以来さまざまな事業を実施し、議員の研鑽の機会や学生の学びの場を創
出してまいりました。

令和7年度は、初年度の成果と課題を踏まえ、議員と学生・教員との交流をより一層深
めるため、各事業を更に発展するとともに、新たな取組も実施しました。

例えば、「議員・大学生との合同調査・意見交換」については、昨年度は午後の半日だっ
たものを午前から1日かけての事業に延長し、執行機関からの説明を受けるだけでなく府
の支援の対象である民間事業者と意見交換を行うなど、より多角的な調査を行いました。
また、議員と学生とのランチ交流会を実施するなど、交流の機会を増やすことで、より活
発な意見交換を行うことができました。

また、地域貢献型特別研究（ACTR）のパネル展示を議会棟ロビーで行う事業につい
ては、学生・研究者が議員に直接研究成果を説明するポスターセッションを併せて実施し、
地域での研究や活動についてより踏み込んだ意見交換を行う良い機会となりました。

今後も、府民の声を受け止め意思決定を担う京都府議会と、知の拠点として教育・研究
と人材育成に取り組む京都府立大学が連携を深めることを通じて、京都府議会としてもよ
り的確な政策形成を推進するとともに、地域の将来を担う人材の育成に貢献してまいりま
す。

京都府議会

京都府立大学は、今年度に創立130周年という節目を迎えました。令和8年度には、公
共政策学部を社会科学部へ名称変更し、7つの社会科学分野を基盤とした教育・研究をよ
り明確に示すこととなります。こうした新たな体制によって、学問領域の専門性と学際性
を一層高め、これまで以上に多様で意欲ある学生・受験生の期待に応えていきます。

そのような中、京都府議会との包括連携協定に基づき、昨年度よりさまざまな事業を実
施してきました。取組を通じ、学生が議長や議員の皆様から直接お話を伺うことができた
のは、非常に貴重な経験となりました。府議会の活動に触れることで、学生の視点が大き
く変わったり、行政への関心が高まりました。

学生からは、「議会では合意形成や調和が重視され、暮らしの中でも共存が大切であるこ
とを学んだ」、「議員が先進的な取り組みを行う事業者の意見に耳を傾け、新しい挑戦に理
解を深めようとする姿勢が印象的だった」、「多くの質問や意見をいただき、大きな励みにな
った」など、前向きな感想が多数寄せられました。

今回の連携事業を通じ、議会と大学が交流することで得られる学びの豊かさが改めて確
認できました。今後も、双方が刺激を受け合い、知見を深めることができるよう、連携を
継続し、更なる発展につなげてまいります。

京都府立大学

1 連携事項

包括連携協定に基づく連携事項は次のとおりである。

- (1) 府議会の政策形成及び調査に関する事項
- (2) 大学の教育・研究及び人材育成に関する事項
- (3) その他目的を達成するために必要な事項

2 令和7年度実施事業の概要（詳細は別紙参照）

令和7年度に実施した包括連携事業は次のとおりである。

(1) 府議会の政策形成及び調査に関する事項

ア 京都府立大学副学長による講演（P. 8 資料3）

- ・日時：9月25日（木）10時30分～11時45分
- ・内容：全議員を対象にした府立大学副学長による講演を実施した。「府大発スタートアップ企業について」をテーマに、府立大学の取組などについて講演があり、質疑応答を行った。

イ 議員・大学生との合同調査・意見交換（P. 9 資料4、P. 11 資料5）

①合同調査・意見交換

- ・日時：11月17日（月）10時～17時
- ・内容：「未来を拓く京都産業の実現ースタートアップ支援についてー」をテーマに、①担当課からの事業説明、②民間事業者との意見交換、③現地視察（オープンイノベーションカフェ「KOIN」（京都経済センター）、アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都「ATVK」）、④ランチ交流会、⑤議員と大学生との意見交換などを実施した。議員6名、学生9名と公共政策学部教授が参加した。

②成果報告

- ・内容：合同調査・意見交換に参加した公共政策学科の学生が、学内で行われた「公共政策実習Ⅰ成果報告会」において、合同調査・意見交換に関連する内容について発表したことを受け、当該成果報告に関する資料を全議員に配布した。

ウ 議会図書館と京都府立大学附属図書館の連携（P. 12 資料6、P. 13 資料7）

①図書館見学

- ・日時：9月18日（木）及び19日（金）11時～11時30分
- ・内容：議員を対象に図書館の施設概要、研究個室の利用方法の紹介、バックヤードの見学を実施した。議員24名が参加した。

②パネル展示

- ・期間：9月17日（水）～12月17日（水）
- ・内容：府立大学の研究成果の活用として、議会棟ロビーで府立大学の地域貢献型特別研究（ACTR）の成果のパネル展示・デジタルサイネージによる動画紹介等を実施した。

③ポスターセッション

- ・日時：12月5日（金）、9日（火）、15日（月）11時～12時30分
- ・内容：②パネル展示について、学生・研究者が議員に対して、研究内容の説明や意見交換を行うポスターセッションを実施した。議員のべ71名、研究者20名、学生10名が参加した。

(2) 大学の教育・研究及び人材育成に関する事項

ア 京都府議会による地方議会制度の講演（P. 14 資料 8）

- ・日時：7月7日（月）16時10分～17時40分
- ・内容：府立大学公共政策学部生を対象として「地方議会制度」をテーマに、荒巻議長が講演を実施した。学生60名に対し、議決機関と執行機関の役割分担や議員の日頃の活動等について講演があり、質疑応答を行った。

イ 議員・大学生との合同調査・意見交換（再掲）（2(1)イ）

ウ インターンシップ実習生の受入（P. 15 資料 9）

- ・期間：8月26日（月）～9月8日（月）
- ・内容：府立大学公共政策学部の3回生1名を10日間、実習生として議会事務局で受け入れた。①議長公務の随行、②議会運営委員会等の準備や運営補助、③出前高校生議会の準備・運営、④委員会調査のテーマ、調査先の選定など事務局全課で幅広い業務体験を実施した。

エ 大学生の委員会傍聴（P. 16 資料 10）

- ・日時：8月19日（火）13時～16時20分 政策環境建設常任委員会
8月22日（金）13時～16時 文化生活・教育常任委員会
- ・内容：①議場見学、②閉会中常任委員会の傍聴、③委員と学生との意見交換等を実施した。学生4名及び各常任委員会委員が参加した。

(3) その他目的を達成するために必要な事項

ア SNS、HP等による情報発信

- ・府議会HP、XやFacebookへ掲載
- ・KBS「ようこそ府議会」の放送（12月14日放送）
- ・新聞記事掲載（京都新聞 11月18日朝刊）

3 参加教員の所感について

(公共政策学部 川勝健志教授)

「未来を拓く京都産業の実現ースタートアップ支援についてー」をテーマとする合同調査・意見交換会に、「公共政策実習Ⅰ」を受講している学生9名が私の研究室から参加させて頂きました。

当該実習は座学だけでなく、政策の現場で実践的な学びの力を養うために、公共政策学科で2回生を対象に提供している科目ですが、これまでの現地視察や聞き取り調査では、主に行政職員の方々にお話をお伺いすることがほとんどでした。しかし、今回のように議員の皆様とご一緒させて頂いたことで、学生はこれまでにない気づきや学びを得られたように思います。

現場で同じものを見て聞いたにも関わらず、参加者それぞれがどのような点に着目し何を考えたのか、意見交換会を通じて、学生はその立場によって、実に多様であることを改めて認識したことでしょう。とりわけ、政策の意思決定や評価に深く関わる議員の皆様が目線や思考の一端を直接知ることができたのは、学生にとって実践的な学びの機会として極めて貴重であったように思います。

(公共政策学部 岩松義秀客員准教授)

荒巻隆三議長から公共政策学部の「市民参加論」において「地方議会制度」についての特別講義をしていただきました。大学に入って間もない1回生を中心に学生約60名が、目の前で荒巻議長から地方議会制度を直接学ぶことができました。

また、荒巻議長は、政治家の子どもとしてご苦労された幼少期の話や議員としての日々の活動や課題について語られ、学生達は、巷で騒がれている裏金問題などの不祥事ではなく、政治家の活動や苦労がどのようなものかを知ることができました。

学生達は主義主張の異なる会派の調整に多くの関心があり、荒巻議長からは「数の力ではなく、議論を尽くし合意形成を図っている」とのお答えに、そのご努力を知ったところです。

また、文化や習慣が異なる外国人訪日客と地域との共存の質問には、ご自身の選挙区である観光地東山区について、ご自身の体験も踏まえお話をされたところです。

特別講義を通じて、地方議会制度はもとより、政治家の役割や人柄を知る、受講生にとって非常に学びの多い機会となりました。

(京都地域未来創造センター センター長 岩崎雅史教授)

昨年度ご好評をいただいた議会棟ロビーでの「地域貢献型特別研究(ACTR)」の成果展示に加え、今年度は教員と学生が直接解説を行うポスター発表会を新たに開催させて頂きました。

ポスター発表会では、多くの議員の皆様にご足を止めていただき、熱心にご質問いただくなど、活発な意見交換が行われました。議員の皆様ならではの鋭い視点からいただいたコメントは非常に有意義であり、研究成果をいかに地域実装していくかを再考する貴重な機会となりました。

こうした取り組みは、昨年度以上に議会事務局の方々と緊密な連携を図ることで実現したものです。来年度も府との連携をさらに強化し、「大学の知」をこれまで以上に府政へと還元できる一年になることを期待しています。

《 資 料 》

各包括連携事業の結果概要等

1	京都府議会と京都府立大学との包括連携に関する協定書	6
2	令和7年度 京都府議会・京都府立大学 包括連携事業計画について	7
3	京都府立大学副学長による講演の実施結果について（報告）	8
4	議員・大学生との合同調査・意見交換の実施結果について（報告）	9
5	議員・大学生との合同調査・意見交換に参加した学生の成果報告	11
6	京都府立大学附属図書館見学会 報告	12
7	京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）の ポスターセッションの実施結果について（報告）	13
8	京都府議会による地方議会制度の講演の実施結果について（報告）	14
9	インターンシップ実習生の受入について（報告）	15
10	大学生の委員会傍聴の実施結果について（報告）	16
11	京都府議会・京都府立大学 包括連携事業実績（R6～R7）	18

京都府議会と京都府立大学との包括連携に関する協定書

京都府議会(以下「甲」という。)と京都府立大学(以下「乙」という。)は、次のとおり包括連携に関する協定を締結する。

(目的)

第1条 本協定は、二元代表制の一翼を担い、府民の代表として多様な意見を集約し、府の意思決定を行う京都府議会と、知の拠点として教育・研究と人材育成に取り組む京都府立大学が包括連携することにより、地域が抱える様々な課題についての的確に取り組むとともに、魅力ある地域づくりの推進や人材の育成に資することを目的とする。

(連携事項)

第2条 甲及び乙は、前条の目的を達成するため、次の事業について連携し、協力する。

- (1) 甲の政策形成及び調査・研究に関する事項
- (2) 乙の教育・研究及び人材育成に関する事項
- (3) その他前条の目的を達成するために必要な事項

(連絡調整)

第3条 甲及び乙は、前条の連携事項を円滑に推進するため、両者協議の上、双方の負担に配慮し、弾力的な運営に努めるものとする。

(有効期間)

第4条 本協定の有効期間は、協定の締結日から令和7年3月 31 日までとする。ただし、本協定の有効期間満了の日から2箇月前までに、甲又は乙から特段の意思表示がない場合には、更に1年間更新するものとし、その後も同様とする。

(疑義の処理)

第5条 本協定に定めのない事項及び本協定に関して疑義が生じた事項については、甲と乙が協議の上、決定する。

本協定の締結を証するため、本協定書を2通作成、それぞれ1通を保有する。

令和6年3月 18 日

甲 京都府議会

議長 石田 宗久

乙 京都府立大学

学長 塚本 康浩

令和7年度 京都府議会・京都府立大学 包括連携事業計画について

令和6年度事業実施結果を踏まえ、令和7年度は、次のとおり包括連携事業に取り組むこととする。

1 府議会の政策形成及び調査に関する事項

①学長(教授)による講演

- ・令和7年9月定例会中に実施する方向で調整

②議員・学生の合同調査・意見交換

- ・時期・テーマ・規模については今後調整

③府議会図書館・府立大学附属図書館との連携

- ・府立大学の研究成果等の展示、附属図書館の見学会 等

④大学が実施している公開講座等への案内・参加

- ・「議会活動支援情報」(メルマガ)での配信 等

2 大学の教育・研究及び人材育成に関する事項

①議長(議員)による講演

- ・令和7年7月頃に実施する方向で調整

②議員・学生の合同調査・意見交換(再掲)

③インターンシップの受入れ(京都府受入キャリア教育プログラム事業)

- ・議会事務局で1名受け入れる方向で調整

④本会議・委員会の学生傍聴

- ・8月閉会中又は11月閉会中に実施する方向で調整

3 その他目的を達成するために必要な事項

①成果の共有

- ・SNS、HP、議会だより等による情報発信
- ・令和8年2月定例会において実績の報告・公表

京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業

京都府立大学副学長による講演の実施結果について（報告）

京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業として、京都府立大学副学長による講演が実施されましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 実施結果

- (1) 日 時 令和7年9月25日（木）10時30分～11時45分
- (2) 場 所 京都府議会 大会議室
- (3) テーマ 府大発スタートアップ企業について
- (4) 出席者 京都府議会議員
- (5) 内 容
 - ・ 議長あいさつ
 - ・ 講演（増村 威宏 副学長）
 - ・ 質疑応答

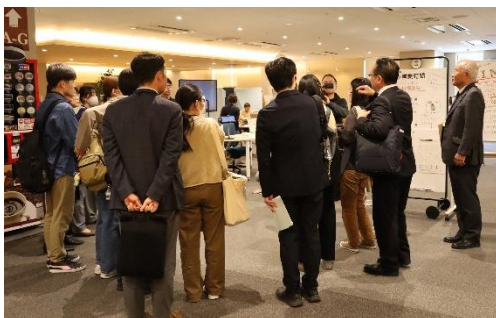


京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業 議員・大学生との合同調査・意見交換の実施結果について（報告）

京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業として、議員・大学生との合同調査・意見交換を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

- 1 日 程 令和7年11月17日（月）
- 2 テーマ 未来を拓く京都産業の実現ースタートアップ支援についてー
- 3 参加者 京都府議会 家元優議員、宮下友紀子議員、田中志歩議員、
成宮真理子議員、増田大輔議員、池田輝彦議員（6名）
京都府立大学 学生9名、川勝健志公共政策学部教授
- 4 内 容
 - ・京都経済センター（概要説明、オープンイノベーションカフェ「KOIN」の視察）
 - ・ランチ交流会（於：議会棟）
 - ・アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都（概要説明、意見交換、施設視察）
 - ・議員と大学生との意見交換（於：議会棟）
- 5 参加学生の主な意見
 - 小・中学生へのアントレプレナー教育を通じ、早期に起業を知る機会を提供する取組は良い考えだと思った。
 - 単に補助金を交付するのではなく、企業同士のつながりや交流の場を行政が提供・支援することは良い取組だと思った。
 - 企業にとって「京都ブランド」が非常に大きな価値を持つことが分かった。
 - 自社だけでは視点や考え方が限られるが、異業種交流によって新しい技術やイノベーションの糸口が見つかることが重要だと感じた。



オープンイノベーションカフェ「KOIN」（京都経済センター内）



アート&テクノロジー・ヴィレッジ京都（ATVK）



議員と学生との意見交換



参加者一同

○学生アンケート結果（主な意見を記載）

◆事業担当課からの説明を聞いて、印象に残ったこと等について

- ・京都という地域が、スタートアップに適したリソースを持っていることを再確認できた。大学生の多さや老舗企業の数などで有利な点が多く、そこに注目した政策を展開できるのではと思った。
- ・スタートアップ企業同士や異業種間同士での交流が新たな産業創出の好循環を生み、行政がこうした交流の場を作ることの意義を改めて見出すことができた。

◆現地視察に参加してみて、印象に残ったこと等について

- ・ATVKに入居している企業では、トライアンドエラーを積み重ねてイノベーションを達成することを目指していると仰っていたところが印象に残った。
- ・企業からみた京都の魅力・ブランド力の有用性への理解が深まった。

◆議員と意見交換してみて、印象に残ったこと等について

- ・議員の方々が、様々な分野にそれぞれの関心事を持って、政策作りに励んでいることが分かり、印象的であった。
- ・議員が想像以上に住民との交流を重視している点や、政策実現に向けて議論すること、勉強することに対してとても強い熱量を持っていたこと。

◆その他の意見について

- ・様々な立場からのスタートアップに関する意見や今後の展望を聞くことができ、有意義な機会だったと感じた。
- ・バス移動やランチ交流会をとおして、想像以上にフラットな形で議員と話しができた。今回のテーマ以外のことについても意見交流ができてとても有意義な時間になった。

議員・大学生との合同調査・意見交換に参加した学生の成果報告

【研究概要】スタートアップ政策における都道府県の役割～京都府を事例として～

京都府立大学公共政策学部公共政策学科 2 回生

川勝ゼミ スタートアップ班

内片彩喜、大西淳平、志馬明香里、野平ゆり

本研究は、日本におけるスタートアップ政策の課題を再整理し、地方自治体が果たし得る補完的役割を明らかにするため、京都府を対象に一考察を試みたものである。日本では近年、スタートアップの資金調達額が増加しつつあるものの、国際比較では依然として規模が小さく、特にアメリカとの差は極めて大きい。国内においても、東京都が全国の資金調達の約 4 分の 3 を占めるなど、地域間格差が顕著である。また、国の政策である「スタートアップ育成 5 か年計画」では、補助金の対象が大企業に偏るなど制度運用の不備が指摘されている。言い換えれば、画一的な支援が多様なスタートアップの実態に十分対応できていない状況は、地域ごとの特性に応じた地方自治体レベルの取り組みが重要であることを示唆している。

スタートアップに対する公的支援の正当性は、参入障壁や情報の非対称性、研究開発の正の外部的性といった市場の失敗に求められる。特に創業間もない企業にとっては、資金提供よりもむしろ専門家の助言、ネットワーク形成、大学や企業とのマッチングといった「ソフトな支援」の方が実効性を持つ場合が多い。しかし支援すべき「質の高いスタートアップ」を初期段階で見極める手法が確立されていないことは、政策実施上の重要な課題である。

本研究では、京都府議会との合同調査および京都府産業振興課を介した京都知恵産業創造の森へのヒアリングを通じ、都道府県レベルでスタートアップ支援を行うことの意義と課題を明らかにした。特に都道府県政策において問題となる、便益の域外流出（スピルオーバー）については、それ自体が問題というよりも、むしろ広域的な協業を通じて府内企業の競争力向上、雇用創出、税収増、さらには「京都ブランド」の価値向上へとつながりうることを示唆された。他方、京都府では便益の大きさによって企業を選別する基準を設けず、多様な起業家の挑戦を支えることを基本方針としていることにも着目した。その背景からは、京都が有する歴史・文化・大学集積・老舗企業群など、数値化しにくい大きな政策資源となる「京都ブランド」を重視する姿勢がうかがえた。

こうした調査結果から、京都府のスタートアップ政策の核となっているのは、KOIN (Kyoto Open Innovation Network) によるソフト支援であることが確認された。KOIN は相談対応、コミュニティ形成、ピッチイベント、企業・投資家とのマッチングといった支援を提供し、国の画一的政策では不足しがちな“個別具体的な伴走支援”を実現している。また京都府北部のアクセス課題を踏まえ、オンライン相談の導入は支援の公平性と実効性を高める手段として有望である。

以上から本研究では、①伴走支援のさらなる強化、②社会課題解決型スタートアップ支援および伝統産業とのマッチング事業の拡充を政策提言した。これらは京都府の地域資源を活かしつつ、国の政策の限界を補完し得るモデルであり、他の地方自治体にも広く応用可能な意義を有する。しかしそのことは同時に、都道府県単位で支援するスタートアップの対象をいかに地域貢献に資する形で選定できるか、その基準の設定などが課題になることを示唆している。

京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業

～京都府立大学附属図書館見学会 報告～

京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業として、京都府立大学附属図書館の見学会を実施しましたので、下記のとおり報告します。

記

1 日 時

令和7年9月18日(木)及び19日(金)
時間はいずれも午前11時～11時30分

2 場 所

京都府立大学附属図書館

3 出席者

京都府議会議員24名（18日:10名、19日:14名）

4 内 容

- ・図書館の施設紹介
- ・蔵書及びデータベースを利用した調べ方
- ・グループ研究室・研究個室の利用方法
- ・バックヤードツアー

9月18日



9月19日



京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業

京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）の ポスターセッションの実施結果について（報告）

京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業として、京都府立大学地域貢献型特別研究（ACTR）のポスターセッションを実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 日 時

令和 7 年 12 月 5 日（金）、9 日（火）、15 日（月） 11：00～12：30

2 場 所

京都府議会 議会棟ロビー

3 参加者

京都府議会議員 のべ 71 名
京都府立大学 研究者 20 名、学生 10 名

4 内 容

研究成果について研究者・学生が議員に直接説明・意見交換

5 参加した学生のコメント

- ・ 議員の皆様と直接ディスカッションする機会をいただき、貴重な経験となった。また、議員の皆様が地域に対して抱いておられる考えや思いに触れることができ、とても良かった。
- ・ 議員の皆様から多くの質問や意見をいただき励みになった。これからも地域に根ざした大学として、ACTR の研究を進めていきたい。
- ・ 府議会議員の皆さんに発表を聞いていただき、戦後 80 年という年に沖縄戦について京都府出身の戦没者という視点から伝えることができ良かった。
- ・ 熱心に話を聞いてくださって、うれしかった。戦争を体験していない世代ですが、戦争について伝える大切さを改めて感じた。



京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業

京都府議会による地方議会制度の講演の実施結果について（報告）

京都府立大学との包括連携協定に基づき、昨年度に引き続き、京都府議会による地方議会制度の講演を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 実施結果

- (1) 日 時 令和 7 年 7 月 7 日（月）16 時 10 分～17 時 40 分
 (2) 場 所 京都府立大学 稲盛記念会館 205 講義室
 (3) テーマ 地方議会制度について
 (4) 出席者 ・京都府立大学 公共政策学部等 学生 60 名

塚本康浩学長

・京都府議会 荒巻隆三議長

- (5) 内 容 ・学長あいさつ
 ・講演（議長）
 ・質疑応答
 ・記念撮影



2 アンケート結果（主な意見を記載）

◆講演を聴いて政治や議会への意識が変わったか（括弧内はその理由）

- ・変わった …88%（政治が身近な存在であることがわかったから等）
- ・どちらともいえない… 3%（元々関心のある分野であるから等）
- ・変わらなかった … 9%（従来知っている内容であったため等）

◆選挙があれば投票したいか

- ・投票したい …93%
 - ・できれば投票したい… 5%
 - ・どちらともいえない… 2%
- ※「投票したい」と「できれば投票したい」を合わせると 98%

◆講演で印象に残ったことや理解が深まったこと

- ・ 京都府議会の運営や構成、仕事内容などを今までより詳しく理解できた。特に、多数派が少数派を抑え込まないように、少数派の意見や批判意見も尊重しながら議会を進めることを大切にしている、といった議長の言葉が印象に残った。
- ・ オーバーツーリズムによる弊害について、悪い面だけがメディアなどで報道されがちだが、日本が好きで来てくださっている方を丁寧にお出迎えするという意識を持つことも必要だというお話を聞き、批判の目も大切ではあるが、幅広い視点からものごとを捉え直す大切さを痛感した。
- ・ 地方議会と聞くと議案の議決だけを思い浮かべていましたが、請願の受理や国への意見書の提出なども議会の仕事であることが理解できた。

京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業

インターンシップ実習生の受入について（報告）

京都府立大学との包括連携協定に基づき議会事務局にインターンシップ実習生の受入を行い終了しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 実習生

京都府立大学 公共政策学部 3回生 1名

2 受入期間

令和7年8月26日（火）～9月8日（月）

3 主な実習内容

- 総務課
 - ・議長公務の準備・随行
 - ・出前高校生議会の準備・運営
 - ・図書館ニュースの作成

- 議事課
 - ・議会運営委員会、議会改革検討小委員会の準備・運営補助
 - ・政務活動費運用マニュアルの修正
 - ・職員研修（講演）の準備・参加

- 委員会課
 - ・委員会資料作成、委員会記録の校正
 - ・委員会調査のテーマ、調査先選定
 - ・他府県議会の視察への対応

4 実習生の所感

議会のサイクルを理解することで、執行部で仕事をする際にも府政を俯瞰して捉えられるうえ、府の業務が議会に沿って進められるため、全体の流れを把握しやすいという指摘が非常に印象的だった。

また、議決機関の現場に若いうちから触れることができたことは、良い経験だった。



出前高校生議会の用務に従事している様子(右手前)

京都府議会と京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業

大学生の委員会傍聴の実施結果について（報告）

京都府立大学との包括連携協定に基づく連携事業として、大学生の委員会傍聴を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

1 実施結果

- (1) 日時 令和7年8月19日（火）13時～16時20分 政策環境建設常任委員会
令和7年8月22日（金）13時～16時 文化生活・教育常任委員会
- (2) 参加者 京都府立大学 公共政策学部 学生4名
（政建：1名、文教：3名）
- (3) 内容 ①議場見学
②閉会中常任委員会の傍聴
③委員と学生との意見交換
- 【意見交換テーマ】
- | | |
|----|------------------|
| 政建 | 「公共交通が果たす役割について」 |
| 文教 | 「公立高校に期待すること」 |

2 意見交換での大学生の発言（一部抜粋）

- 政建：地元の北部と京都市内では公共交通に対する認識が違っていると感じた。圧倒的に京都市内の公共交通が使いやすく、地域公共交通の役割は本来丁度良い時間と場所で運行する便利なものであるべきだと思っている。
- 文教：探求の質をどうやって担保するか、生徒自身の興味関心をどう引き出していくかについて、委員の先生方や理事者の方との間で具体的な面から質疑が行われているのが興味深かった。

3 アンケート結果（主な意見を記載）

◆今回の傍聴・意見交換により、議会・議員への意識は変わったか？

傍聴に参加した4名全員が「変わった」としている。

【理由】

- 政建：「議員の方々がそれぞれの出身地等の背景を踏まえた発言をされており、議会に多様性があった。」
- 文教：「先進的で最先端に行く事業者に対して意見を求め、新しい取組に対して理解を深めようとされていたところが印象的だった。また、教育において新しい取組を取り入れようと方法を探られていたところが、議員の方々の保守的な印象と違った。」

4 意見交換の様子

政策環境建設常任委員会



文化生活・教育常任委員会



		令和6年度	令和7年度
議員向け	①学長(教授)による講演 (全議員対象)	9月定例会 (令和6年9月20日) 塚本学長 「新生・京都府立大学について」	9月定例会 (令和7年9月25日) 増村副学長 「府大発スタートアップ企業について」
	②大学が実施している 公開講座等への参加	議員派遣 —	—
		メルマガ 配信 (開催案内)	—
議員・ 学生向け	③議員・学生との合同調査、意見 交換	令和6年11月28日 子育て環境日本一の取組について ～若者の希望が叶う環境づくり～ 議員6名、学生8名、教授1名	令和7年11月17日 未来を拓く京都産業の実現 —スタートアップ支援について— 議員6名、学生9名、教授1名
			・学生の成果報告を全議員へ配布 3/3
	④議会図書館と大学附属図書館 との連携	・研究成果の展示 9/12～12/20	・研究成果の展示 9/13～12/17
		・府大図書カードの発行 10/3	・ポスターセッション 12/5、9、15 ・附属図書館見学会 9/18、9/19
学生向け	⑤議長(議員)による地方議会制度 の講演	令和6年7月17日 「地方議会制度について」 学生88名	令和7年7月7日 「地方議会制度について」 学生60名
	⑥本会議・委員会の学生傍聴	委員会傍聴 令和6年11月25日 (総警6名、危健6名、文教4名)	委員会傍聴 令和7年8月19日(政建1名) 令和7年8月22日(文教3名)
	⑦インターンシップの受入れ	令和6年9月2日～13日 (公共政策学部3回生 1名)	令和7年8月26日～9月8日 (公共政策学部3回生 1名)
その他		令和6年11月29日 総務省 地方議会活性化シンポジウム 事例発表	